

第1回 「医療と介護のお気軽座談会」 アンケート集計

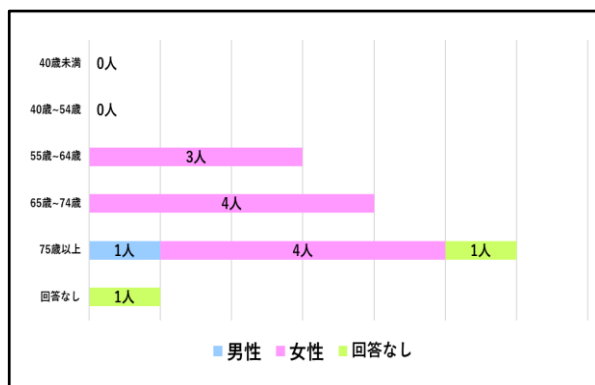
* 開催日：令和2年1月30日（木）

* 会 場：真崎町公民館

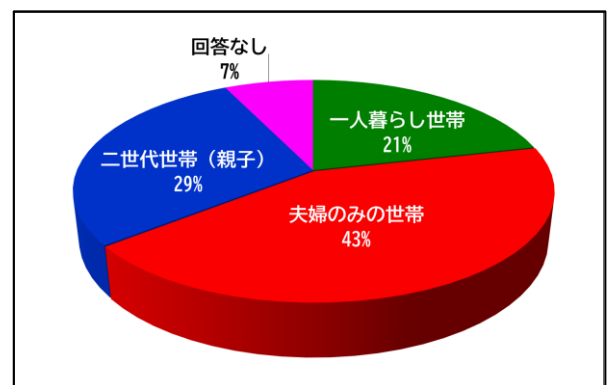
* 内 容：①「在宅医療ってなあに？」
 ②「介護保険サービスを利用する」
 ③「かかりつけ医で安心を！」
 ④「その時に備えて」

参加者数	17人
アンケート回答者数	14人
回収率	82%

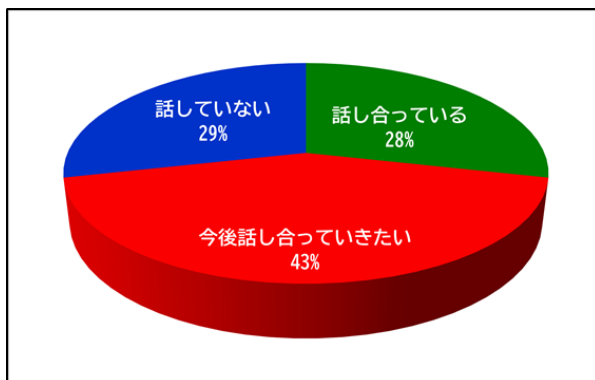
(1)性別・年齢



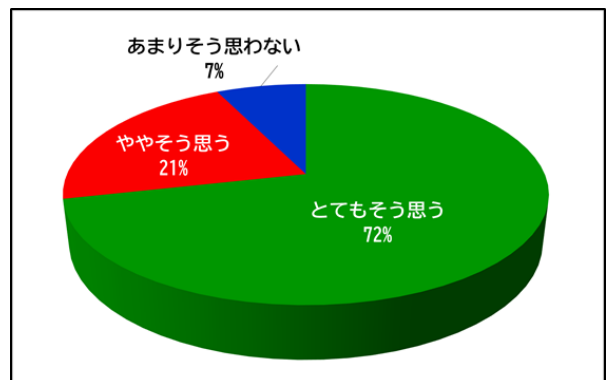
(2)現在、誰と住んでいますか



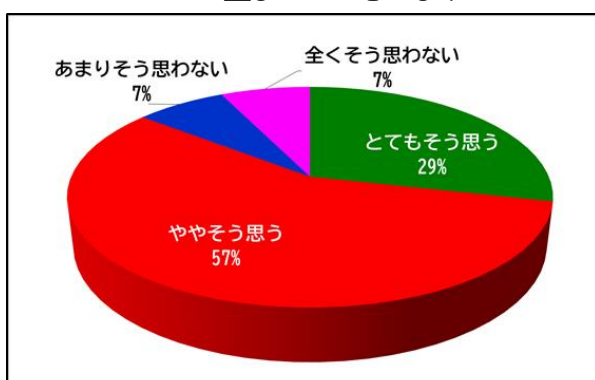
(3)介護が必要になった場合について、 家族と話し合ったことがありますか



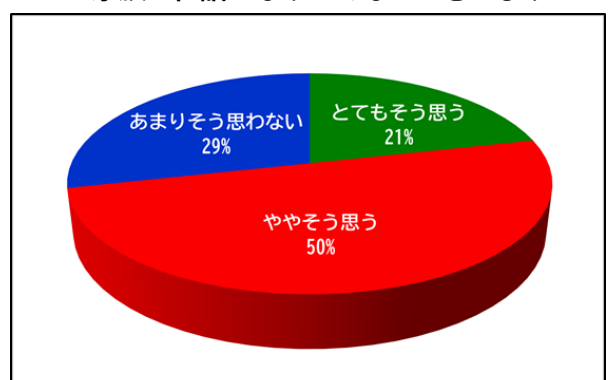
(4)自分や家族の望む医療や介護について、 家族と話しあった方がよいと思いますか



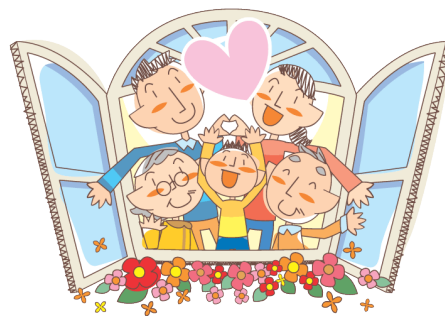
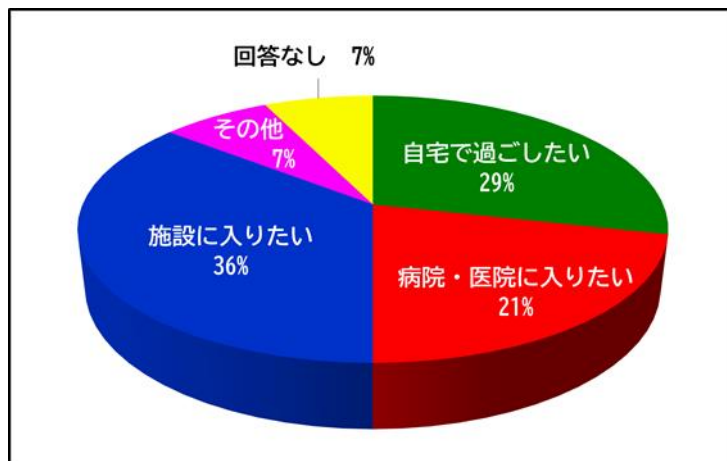
(5)出来れば介護は家族でする方が 望ましいと思いますか



(6)介護が必要になったとき、 家族の世話になりたくないと思いますか



(7)あなたが介護が必要になったとき、どこで過ごしたいですか



■ 自宅で過ごしたい

- ①主人が元気であれば自宅で過ごしたいが、負担が大きくなれば施設へと思います。
- ②両親を自宅で介護してきて、両親はとても喜んでくれたので、私もそう過ごしたいという願いはありますが、でも、迷惑はかけられないという思いもあります。
- ③自分が築いた家庭が一番。心から休める場所だから。
- ④自宅で過ごしたいのが本音ですが、家族のことを思うと自分の思いばかり主張できません。また、施設に入居するには、年金生活だけでは余裕がありません。将来の自分の生き方を真剣に見つめ直し、家族との話し合いを大切にし、自分の意見をもちたい。

■ 病院・医院に入りたい

- ①嫁に迷惑をかけたくない。

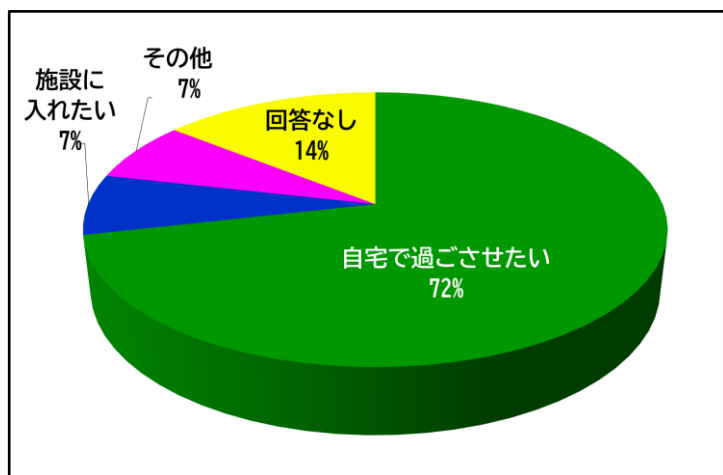
■ 施設に入りたい

- ①嫁に介護をしてもらうのは気が引ける。施設が気楽。子どもに迷惑をかけたくない。
- ②子どもに任せるが、迷惑をかけないようにしたい。
- ③一人暮らしをしています。男の子ばかりで遠くにいて帰る計画はないようです。
- ④子供たちに迷惑をかけたくない。

■ その他

- ①願わくば、子どもの世話にならないような最期を迎えたい。

(8)家族が介護が必要になったとき、どのようにしたいですか



■ 自宅で過ごさせたい

- ①住み慣れた自宅で援助をいただきながら過ごさせたい。
- ②できる介護は家でしてあげたいが、手が足りない時は施設に入れることも考えたい。
- ③義母はグループホームで最期を迎えた。いい施設だと思っていたが、やはり自分がいる限りは自宅で支援を受けながらも過ごさせたい。
- ④主人の介護はできたらいいなと思っています。でも、ひどくなったら施設の利用もお願いに行きたいです。
- ⑤私が介護できる状態の時なら自宅で過ごさせたい。
- ⑥自宅希望は私が元気だったら…の希望です。これも無理です。
家族がどう思っているかは？です。私とは性格が違うので、施設で他の方と仲良く過ごせるのかもしれません。
- ⑦日々子供や孫たちの声が聞こえる場所にいてもらいけど、それは無理と承知しているので施設に入りたい。
- ⑧自分の健康の続く限り精一杯介護していきたい。社会的援助を受けながら本人の意向を大切にして、「幸せ」だと思ってもらえる介護に取り組んでいきたい。無理をせずお互いに社会支援を大切にしていきたいです。

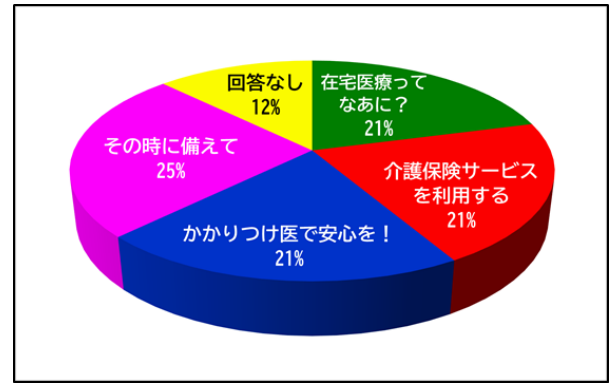
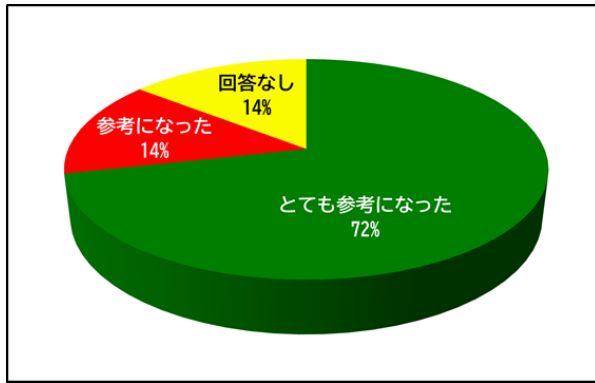
■ 施設に入りたい

- ①迷惑をかけたくない。

■ その他

- ①家族でしたいですが、一人では無理です。

(10)特に参考になった講演はどれですか（複数回答可）



(11)本日の座談会についてご意見をお聞かせください

- ①元気な今は自分自身のことと思えなかったが、医療と介護のことを座談会で教えてもらえて、自分のこととして考えることができた。
- ②楽しく終末のことについて考えることができた。早めに備えて、家族と話し合っってノートに書いていきたい。姑はいろいろなことを希望して書き留めていたが、兄弟の話し合いがまとまらず、姑の希望通りにならなかった経験がある。子どもや周りの世話にならず、ぽっくり何も残さず消えるのが希望ですが…
- ③とても参考になりました。家族と話すことも大事と思いました。
- ④身内が亡くなっていますので、健康であるときは必要性を感じませんが、夫婦二人でどちらかが病気になりますと必要性をすぐ感じると思います。参考になりました。
- ⑤地域包括支援センターの役割が聞けてよかったです。その時に備えての用紙に書かれていた事は、さっそく準備する必要を感じました。
- 夫婦二人の生活で、年々年を取ってきました今、良い情報を聞かせていただきとても参考になりました。
- ⑥両親のことは終わりましたが、今度は私たち夫婦のことですので、とても参考になりました。
- ⑦自分の頭で、自分の耳で今から歩む私の生活に大切な話を聞けてよかった。分かりやすかった。介護体験をされた方、体験中の方のお話も聞けたら良かったと思います。もっと時間をかけて聞きたいと思いました。
- ⑧両親を介護し亡くなるまでの大変なお世話は、姉・妹たちに全て任せてしまった。自ら介護することのなかった長男たる私の後悔を思い知らされた。これからは私自身、妻と共にどう生きていくかを試行錯誤しながら考えていく覚悟ができました。

本日は、貴重な講習に参加させて頂き、有り難うございました。
 現在同居の母が、中火部を支援センターに、お世話になり、
 毎週1回 サービスに通っております。以前は、小倉井町の
 リハビリに通っていましたが、大腸骨骨折後、妹と私、三人同居の
 になりました。その為、今後の生き方について、話し合いました。
 先日も、三人それぞれの終活について、話し合いました。
 今回 サプリで、"その時を備えて..."を拝見し、内容が充実
 して、記入し易く、内容もなで、話し合つてまに、記録し易いとい
 ったので、今回の サプリを利用させて頂きました。
 又、母も祖父(舅、姑)を看取り、自死迄介護してまいりましたが、
 やはり、最期の時期は、自分で、余計な処置をしない方が望んで
 います。そこで、母の望みようにあげて、迅速と希望しています。
 今回、このような機会に参加させて頂き、改めて、お自身の生き方、
 母の人生を幸せに、原野時、真剣に家族の生き方をみつめ
 直すことができました。
 これからも高齢化時代が、益々、深刻になります。国の政策の
 中、高齢化対策を充実し、欲しく、願います。
 国民年金、厚生年金で、施設で生活する内容の拡充や保証等
 真剣に考えて頂きたいです。
 講演から、もっと、このような講習を、密に、とりこんで、頂き、高齢者や
 家族が、希望をもて、安心して、生きることが出来る生活づくり、と、
 発信して頂ければ、有り難いです。
 本日は、明石の春田氏で、講習し、頂き、とても有意義な
 時間でした。により、感謝いたします。

